

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1276000112	
法人名	有限会社桜ケアセンター	
事業所名	グループホーム憩の家	
所在地	千葉県山武市本須賀3841-2	
自己評価作成日	令和7年3月6日	評価結果市町村受理日 令和7年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稻毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和7年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様目線で向き合い、心通う信頼関係を築き安心した生活を送るように、生活や身体面・精神面への配慮を支援できる施設を目指しています。一人一人のニーズや人となり背景などに合った支援、介助と介護でできるところを活かしながら、維持・向上出来るようにサポートしています。家族とも連絡や状態報告をして外出や外泊など利用者様だけではなく御家族様が安心して生活を送れるよう関係性も大切にしています。四季折々の行事やレクリエーション・制作を行い施設内でも四季を楽しみながら生活できる環境づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

帰宅願望がある利用者が多いので、自宅や家族のもとに帰ることを目標にして、日々の支援に務めている。週2回訪問している理学療法士から利用者個別にアドバイスを受け、おむつかりハビリパンツに移行するなど機能改善を図り、一時外泊や外出の後押しをしている。最近、湯舟をまたげない利用者でも職員二人で抱えて入浴できるように大きな浴槽に変更している。近隣にある同法人の事業所の行事に参加するなどの交流もあり、協力関係を築いていく。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに理念を掲示している。	運営推進会議の議事録にホームの方針や理念を記載して、常に意識できるようにしている。ミーティングでは、職員が利用者と向き合う姿勢や言葉遣いに理念が活かされているかを確認している。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	屋台ラーメンをグループホーム前に呼び、地域の方にも来ていただき交流を行っている。	公民館でおこなわれる自治会の祭りや地域業者が開催するハロウィンイベント、近隣の法人内事業所のイベントに参加するなど、日常的に地域との交流をおこなっている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生とのフラダンス体験交流会、山武市主催の防災訓練参加等実施している。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で職員から出た意見を反映できるよう努めている。	運営推進会議は年6回開催されている。会議では、利用者の状況やホームの活動実績、職員の研修、事故等報告などを議題としている。ここ最近の出席者は職員が中心となっている。	議事録は運営推進会議のものであると分かるようにする必要と思われる。日時や参加者の属性を明確にし、検討して決まったことなどを明記するなどの工夫があるとよいと思われる。また、多方面への参加の呼びかけも期待したい。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給中の方が、職員から説明するもご自身の状況を理解されない為、ご家族と山武市役所の方と共に現状の説明を行った。	市担当課との定例的な連絡の他に、市内の地域密着事業者が集まる定期的な会合に参加して情報を交換している。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りができる時間には施錠をせず、外に利用者が出て行っても安全に配慮して自由に行動ができるよう見守りを行っている。	身体拘束廃止や虐待防止に関する指針を策定し、具体的な事項についてホームの考え方を概説している。このほか参考資料を用いて職員の研修を定期的におこなって、適切なケアが実践されるように取り組んでいる。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を定期的に行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームページ及び広報誌等への写真掲載の使用にかかる同意書を利用者家族へ送付し理解と許可を頂いた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	訪問理容の値段改定の際、料金改定の案内を送付した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のADL低下や、問題点などの変化があった際に連絡を密に行い、家族に介護方針の確認、意見を頂いている。	家族の面会来所時、忘年会や地域の祭りに家族が参加する時などに意見を聞く機会が多く、運営に反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2週に一回全体朝礼の後に利用者状況の現状確認と意見を話す会議を行っている。	夕方おこなう全体ミーティングでは主に利用者について情報共有している。毎朝の申送り、全体朝礼や個別面談で職員の意見を把握しており、把握した意見は検討して反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の面談を月1回程度行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や、外部研修は出勤扱いとし勉強の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の受講や、他事業所とイベントなどで交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	リビングにて自己紹介をしていただき、利用者同士が交流できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階においては日々の状態報告等を密に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設の特徴等を家族へ伝え、ご本人の状況を踏まえたうえでご本人に当施設サービスが適當か検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかげ、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、食器拭き等の作業を手伝っていただいている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかげ、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と外泊、外出の機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の時間は感染症の問題がなければ、深夜、早朝を除き対応している。(看取りの際は可能)	家族や友人との面会は居室でおこなっている。家族などとの外泊・外出を積極的に支援して、これまでの関係性が維持できるようにしている。外部の医療機関に受診した時は、帰りに買い物で馴染みの店に寄ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクを通じて利用同士の関係構築を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動された方に対して、面会に伺ったり、必要時にはご家族と連絡を取っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族、ケアマネ、スタッフ等関与された方からの情報から、その方の思いや習慣を可能な限り実現している。(例、飲酒、趣味、等)	入居前に管理者と看護師が面談を実施し、意向を確認している。入居後は、職員が利用者との会話を最優先しており、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	環境等の把握のために、以前住んでいたお得へ訪問したりして状況把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りはもちろんの事、2週に1度、利用者の現状報告をスタッフ間で行い改めて現状把握と周知を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週火曜日に計画作成担当者と会議を行い現状に即した介護計画を作成している。	往診時に管理者が立会い、医師や看護師の意見を確認している。会議では職員と家族の意見を聞いて話し合っている。日々の状態の変化にも注意し、現状に即した介護計画書を作成できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	わずかな変化でも個別記録に記録することをスタッフに意識して記載してもらうと共に、記録を分析し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理学療法士によるアドバイスをもらい、日々の生活につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	山武市主催の消防訓練に参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療時に直近の体調等を把握している介護士が診療に付き添い支援をしている。	月2回の訪問診療、24時間対応可能な訪問看護の体制が整っている。その他専門外来への受診は、都度家族と相談して対応している。元々のかかりつけ医の受診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル報告、体調変化がある場合はすぐ連絡しアドバイスを受けている。」		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院支援課と連携を取り、中間サマリーなどを提供してもらい受け入れ体制を整えるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの同意書を頂いているが、状態悪化時には、再度意向確認をしている。	入居時に説明をおこない意向を確認している。医療との連携を密に図り、家族に今後の予測や準備を伝えている。職員の不安解消や精神的なフォローは管理者が中心に対応している。今後は看取りカンファレンスを実施する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を掲示急変時の対応の周知に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の他、山武市主催の避難訓練に参加している。	年2回の消防訓練の他、市の津波警報を想定した訓練にも参加している。避難所や職員の連絡方法、役割も決めている。備蓄品の管理や他事業所との協力体制もある。	海沿いの立地であり、津波を想定した避難対応が重要である。避難訓練は地域住民に参加を呼び掛けてもよいと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格、認知の具合により、工夫した声掛けを行っている。	一人ひとりに合わせた尊厳や羞恥心に配慮した支援を心がけている。接遇に関しては担当者を決めてミーティングをおこなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	帰宅願望がある方に対し、否定した声掛けを行わないようにするとともに、安全に配慮した上で、外出に付き添うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	たばこが吸いたい方にココアシガレットを提供したり、子供銀行のお金用意したりして否定せずその方の意向に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性にマニュキュアを塗る等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食や屋台ラーメンを呼んだり、ケーキバイキングを楽しんで頂いている。	汁物は具沢山にし、味も工夫して飽きないように心がけている。また、おやつを手作りしたり外出支援での外食等を楽しんでいる。利用者は食器の片付けやテーブル拭きなど、できることに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の調理済み食材を使うと共に、みそ汁は旬の野菜を多く使い具沢山のお味噌汁を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実践している。洗面台まで来れる方は洗面台にて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のADLを把握し、立位をとる事や、ズボンの上げ下げ等、ご自身にてできることは行ってもらうと共に、見守りをしている。	排泄記録で情報を共有している。排泄時は職員が付き添い、転倒に注意しながらできる動作はおこなうよう声掛けを実施している。半日排泄がない時は、すぐに医療へ相談し指示を受けるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄困難者にはクリニックへ相談と、看護師へ相談すると共に、おなかのマッサージや、トイレにてご自身で腹圧がかかるよう声掛けを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在お風呂の改装中であるが、隣の施設にて入浴を行っている。時間がかかるが、入浴時間がしっかりとれるよう、時間配分には気を付け実施している。	週2回曜日を決めて入浴を実施している。浴槽がまたげなくなっても入浴が提供できるよう、浴槽を交換中である。入浴ができない時はベッド上での清拭と洗髪をして清潔の保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間と夜間の差をしっかりとけ、各個人への昼間の活動を行い、夜間の睡眠がしっかりとれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には、申し送りノートを使い共有するように努めています。また吐き出し等の内服困難な利用者様には薬の形態を変えることで対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食器拭き等役割を持っていただくことによりご自身の生活での役割を意識して頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩したり、昼食を外で行ったりして戸外の出る機会を増やしている。	年間の行事計画に沿って、お花見、いちご狩り、お祭り、他の事業所との交流訪問など実施している。また天気の良い日は近隣を散歩するなど、積極的に外出の機会を増やしている。事前予約があれば家族との外出、外泊等も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した際にご自身の現金にてお買い物できるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	未実施		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾りをしたり、トイレ等清潔を保つようにしている、また夕方の帰宅願望が出る際にはTVから静かな音楽にするなど工夫をしている。	木の温もりを感じるリビングは、季節感のある装飾や写真を掲示している。室温や照明もこまめに調整して居心地よく過ごせるようにし、好きな飲み物がいつでも飲めるように準備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	不穏な方等がいる場合には席順を変更したりして不快な思いをしないよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の意向に沿うようにご家族と相談し、使い慣れた家具等を設置したりして限られた空間ではありますが工夫をしています。	使い慣れた家具を持ってきてもらうようにしている。足元の動線の確保、異食防止のため花や装飾は壁の上段に置くなど、安全面にも配慮している。衣替えや衣類の整理、居室の清掃は利用者が職員とともにおこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理学療法士のアドバイスや、職員の声掛けなどの工夫のより、ADLの維持、向上に努めている。		